

「絶対に来年も来てね」

— へき地校で一輪車教室を開催 —



(公財)日本教育公務員弘済会では、平成28年度より新たに一輪車講習会事業が始まりました。当事業はへき地小学校から募集を募り、(公財)ベルマーク教育助成財団、全国へき地教育研究連盟との協力により行われます。今年度は10月に宮城県の小学校2校、11,12月に京都の小学校3校で開催されました。

児童に教えてくれる講師は鈴木奈菜(すずなな)先生と須郷真弥(すごうまや)先生です。2人とも一輪車の全国大会や国際大会で数々の優勝経験がある選手です。



宮城県川崎町立川崎第二小学校

記念すべき1校目の訪問は、宮城県の南西部に位置する川崎町立川崎第二小学校です。全校児童51名の準へき地校です。

始めに全校児童と先生の前で講師2人の模範演技が行われました。音楽に合わせて披露される技に児童はもちろん先生方からも歓声があがりました。続いて校庭に場所を移して実技指導が行われました。一輪車の向き(前後)やサドル位置の調整など基本的なことを伝えた後は、いよいよ一輪車を



① 友達も協力して一輪車の上達に励んでいます

使っての指導です。講師からは乗車時は「姿勢が一番大事」ということを何度も伝えられ、講師と一緒に友達も手を取って練習に励みました(写真①)。一輪車の大技、倒れた状態の一輪車を手を使わずに片方の足でサドルをけり上げて乗車する「けり上げ乗車」に成功した児童もいました。これには講師も「1時間の練習で成功した人は見たことない」と驚いていました。

最後は児童から講師の2人へ「また学校に来てください」とうれしい再訪問のお願いを受けて、1校目の講習会は終了となりました。



宮城県加美町立鹿原小学校

翌日10月26日に訪問した加美町立鹿原(かのはら)小学校は宮城県の北西部の積雪寒冷地域に位置します。全校児童38名の準へき地校です。

この学校は「運動会での演技披露」や「一輪車リレー大会」の行事のため、日頃から一輪車に接する機会も多く、1人1台自分の背丈に調整した「マイ一輪車」を持っています。

講師による模範演技では児童、先生方からの手拍子の中、素晴らしい演技が行われました。児童への実技指導は前夜から早朝にかけての雨の影響により、体育館で行われました。1~2年生計11名と3~6年生計27名の2グループに分かれての指導になりました。「背筋を伸ばし、おなかに力を入れて姿勢よく乗る」ここでも「姿勢」の重要性を繰り返し教えていました。基礎を知らずに乗っている児童も多かったため、熱心に話を聞いています。練習の甲斐あって全く乗ることができなかった児童も手を放し数メートル進めるまで上達しました。

最後は講師を取り囲んでの記念撮影が



② 講師と一緒に
記念撮影

行われ、笑顔の中、宮城県の開催は無事終了となりました（写真②）。

京都府綾部市立上林小学校

11月末には京都府へ場所を移し、3校で実施しました。1日目に訪問した綾部市立上林（かんばやし）小学校は京都駅から特急列車で約1時間、最寄の綾部駅からは車で30分程の場所にある准へき地指定の小学校です。

この学校では高学年の児童を中心に全校生徒の4割が既に手を放して乗れました。

講師の鈴木先生、須郷先生による模範演技では、児童、先生方からの手拍子や歓声がありました。模範演技終了後、低学年と高学年の2グループに分かれて講師の指導に移りました。低学年の児童には鈴木先生がここでも「背筋を伸ばし、おなかに力を入れて姿勢よく乗る大切さ」を熱心に教えていました。高学年の児童には須郷先生が新しい技を伝授し、どちらのグループも熱心に話を聞いては繰り返し練習し、中盤を過ぎると先生同士も一緒になって練習をし、児童らが先生に教えるなど学校全体で盛り上がりました。最後に児童のみんなからたくさんの感想発表をいただきました（写真③）。

京都府亀岡市立畠野小学校

2日目に訪問した亀岡市立畠野小学校は京都駅から特急列車で約40分、京都府の

兵庫県に近い山間部に位置する地域です。最寄の亀岡駅からは車で30分程の場所にあるへき地1級の小学校です。

この学校では15台の一輪車を所有していますが、今回の講習会では近隣の小学校から一輪車10台を借り受け、講習会に臨みました。

児童への実技指導は、低学年と高学年に分かれて行されました。低学年の児童には鈴木先生が前日に続き「背筋を伸ばし、おなかに力を入れて姿勢よく乗る大切さ」を熱心に教えていました。高学年は約半分の児童が手を放して乗れたため、須郷先生が新しい技と友達と協力するダンスの技を伝授し、「手繫ぎ走行」など、失敗を繰り返しながらも友達と協力して何度も挑戦していました。練習を重ねるにつれ低学年、高学年共にできなかった課題ができるようになるなど、開始時より多くの児童が上達しました。

閉会式では参加児童からたくさんの感想があり、参加した先生の発案で、講師2人と児童が握手をしてお別れし、大変和んだ中で無事終了となりました（写真④）。

京都府京都市立宕陰小学校

そして、最終日に訪問した京都市立宕陰（とういん）小学校は京都駅から特急列車で約30分、京都府の山間部に位置する地域です。最寄の八木駅からは車で30分程の場所にあるへき地2級の小学校です。

この学校では児童数より一輪車の数が多く、普段から一輪車に触れていることから児童全員が手を放して乗れます。しかし、指導員の鈴木先生、須郷先生による模範演技が始まると前々日、前日の学校同様、初めて見る技に児童、先生方からの手拍子や歓声がありました（写真⑤）。

児童への実技指導では、8人の児童が習熟度によって2グループに分かれました。須郷先生が担当するグループでは、難易度の高い「手放し乗車」、「蹴上がり乗車」など、男子児童が口を揃えて「カッコイイ」と言った技の数々を繰り返し練習し、互いに技を教え合います（写真⑥）。また、鈴木先生が担当するグループでは友達同士が手を繋いで一緒に「8の字走行」や、手を繋ぎ回転する「メリーゴーランド」などたくさんの高度な技に挑戦しました。閉会後、子ども達全員で校門まで見送りに来てくれ「絶対来年も来てね♪」と嬉しいお願いもあり、たくさんの笑顔の中、無事終了となりました。

平成28年度の実施5校を振り返ると、学年を超える上級生が下級生に教える光景や、男子児童、女子児童が協力して1つの技にチャレンジする姿が見えました。講師の鈴木先生に一輪車乗車における姿勢の「重要性」について伺ったところ、一輪車は全てのスポーツに通ずるものがあり、オリンピックのメダリストらがトレーニングに取り入れているそうです。この講習を機に一輪車や他のスポーツに積極的にチャレンジしてもらうことを願い、次年度以降も引き続き一輪車講習会を実施していきます。



③ 児童からたくさんの感想が



④ 講習会後には握手でバイバイ



⑤ 講師2人の息の合った演技を披露



⑥ 教え合って難技にチャレンジ